

問 危機管理課危機管理係 ☎95-9874、地域防災係 ☎95-9875

南海トラフ地震は、今後30年以内に60～90%程度以上の確率で発生する可能性が相対的に高まっています。日頃の備えや正しい知識があれば、被害を大きく減らすことができます。自分や家族の身を守り、地域で助け合うために、今できることは何かを考えてみましょう。

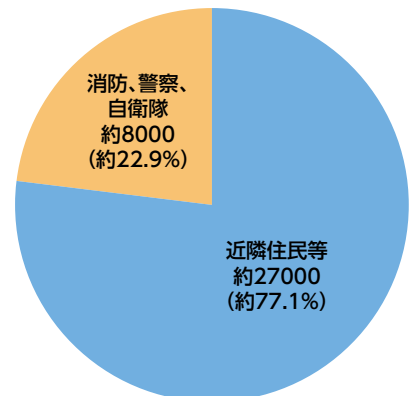
災害発生時における「自助」・「共助」・「公助」



大規模な災害が発生すると公的機関もすぐに支援を行うことができない場合があります。2024年の能登半島地震でも、道路の寸断や土砂崩れにより、行政や消防などの応援部隊が被災地に駆けつけるのに時間を要しました。

そんな時こそ、自分や家族の命を守る「自助」と、地域で助け合う「共助」が大切になります。

図1 阪神・淡路大震災における救助の主体と救出者数



平成26年度版「防災白書」より

阪神・淡路大震災

6,400人以上の死者・行方不明者を出した1995年の阪神・淡路大震災では、倒壊した建物から救出され生き延びることができた人の約8割が、家族や近所の住民などによって救出されています。救助・消火活動を同時に行う必要があることから、行政機関がまひし、十分な被災者支援が行えませんでした。

東日本大震災

1万8,500人以上の死者・行方不明者を出した2011年の東日本大震災では、多くの行政職員が命を落とすなど、本来被災者支援をすべき行政機関自身が大きな被害を受けたことにより、自助・共助による活動に注目が集まりました。

感震ブレーカーで電気火災を予防しよう

地震による火災の約6割は電気が原因です。電気火災とは、揺れに伴う電気機器からの出火や、停電からの復旧時に発生する火災です。

今年6月に愛知県が発表した南海トラフ地震の被害想定によると、碧南市では約4,400棟が火災により焼失するとされています。

電気火災を防ぐには、震度5強相当の揺れを感知し、電気を自動的に遮断する感震ブレーカーの設置が有効です。設置率を100%にすることで、こうした火災被害を約7割削減できる可能性があります。大切な命と財産を守るために、感震ブレーカーの設置を検討しましょう。

家中の電気を一括遮断



接続機器のみ遮断



フェーズフリーで備えよう

フェーズフリーとは、「いつも＝日常時」と「もしも＝災害時」の2つの「場面＝フェーズ」を分けず、日常時に使っているサービスや物を災害時に役立てる考え方のことです。日常時から使うことで使わないものを貯め込まず経済的で、日常時から災害への意識を持つことができます。

フェーズフリーの例

- ・雨具のポンチョは、災害時に防寒具や用を足す際の目隠しとして使えます。
- ・普段から家の周りを散歩することで、道や危険な場所を把握でき、避難経路の参考となります。

ローリングストックで備蓄しよう

備蓄品として買っていた食品が気付いたら賞味期限が切れていた、という経験はありませんか。ローリングストックとは、食糧品や生活必需品など、普段使っている物を少し多めに購入しストックしておく備蓄方法です。

食品なら最低3日分、できれば1週間分ストックしておきましょう。



普段の食品や日用品を少し多めに買い置きし、使ったら使った分だけ買い足すことで無理なく備えることができます。

賞味期限を確認しながら、古い物から使いましょう。

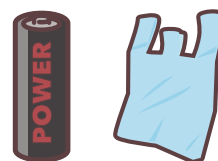
ローリングストックの例

食品・飲料

- ☐ 加熱がいらないもの、お湯が必要ないもの
缶詰、レトルト食品、肉・魚加工品
- ☐ 携帯しやすいもの（パッケージ商品）
チョコレート、せんべい、ナッツ
- ☐ 普段から食べ慣れているもの

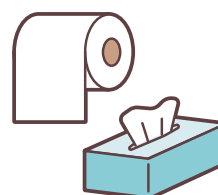
生活用品

- ☐ ラップ
- ☐ ゴミ袋、ポリ袋
- ☐ 乾電池
- ☐ ガムテープ
- ☐ カセットボンベ



衛生用品

- ☐ トイレットペーパー
- ☐ ティッシュペーパー
- ☐ ウエットティッシュ
- ☐ 生理用品、化粧落とし
- ☐ 携帯用（簡易）トイレ



町内会・自主防災会の活動に参加しよう

救助活動や避難生活など、災害時には地域での助け合いが重要になります。町内会に加入したり、地区のイベントに積極的に参加したりして、近所の人と顔の見える関係を築いておきましょう。また、各地区には地域防災を担うための自主防災会が組織されています。自分の住む地域の防災活動へ関心のある人は、まずは町内会へ確認し、活動に参加してみましょう。

また、市では地域防災へ貢献していただける防災リーダーを養成するために防災士資格取得補助金を用意しています。



西端地区の防災訓練の様子